

ヤコブ

聖徒たちと歩む聖書 ~19~
ヤコブ その2

「天のはしごなるメシア」

創世記28章 旅人ヤコブへの神の約束

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

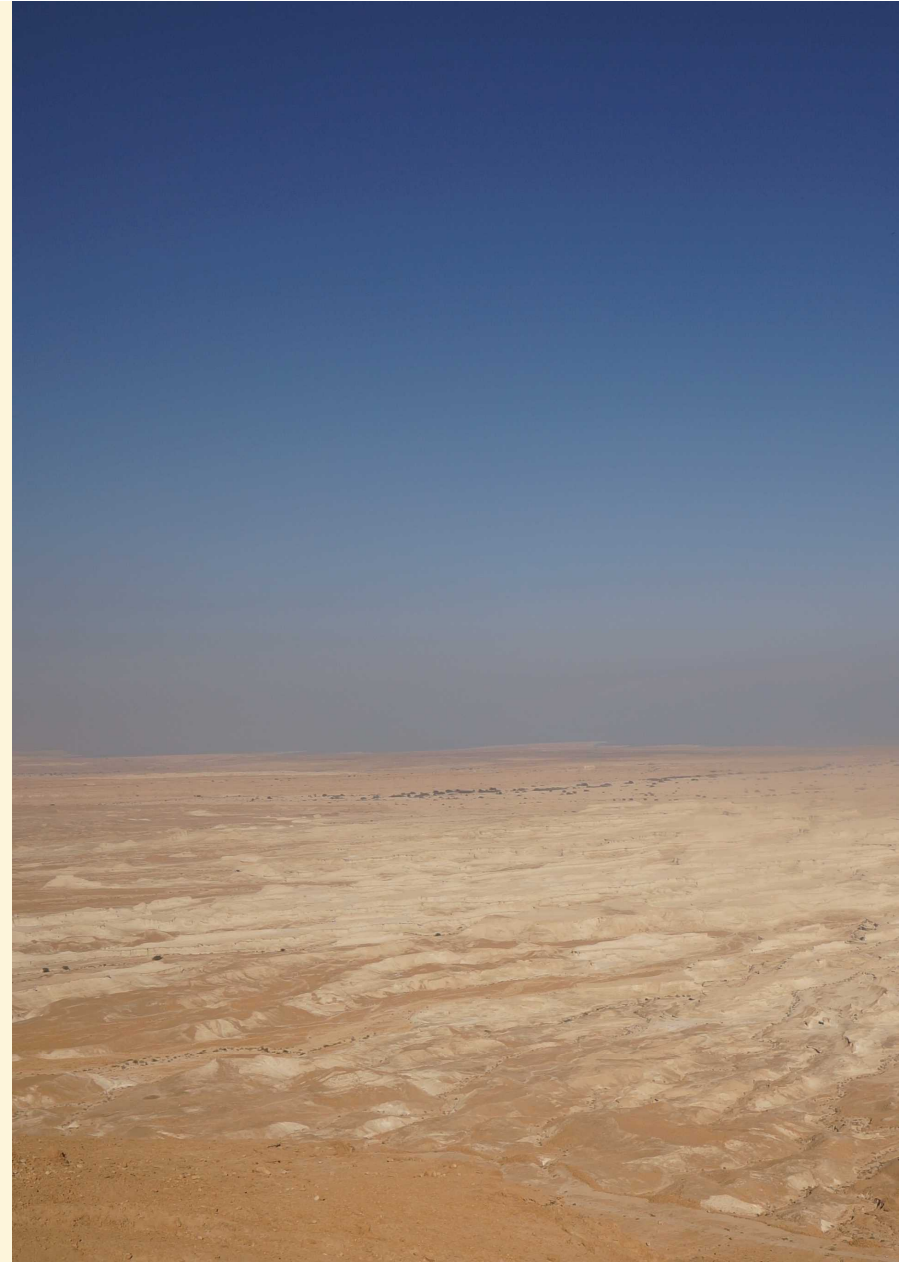
I. ヤコブの霊的体験

～荒野のただ中で～

II. ハランの地での出会い

III. まとめと適用

生けるキリストと共に歩もう



0. ふりかえり



【創世記11章までに明らかになったこと】

①人類は、たった一つの約束も守れなかった。



最初の罪・破られたエデン契約

②人類は、**良心**によって、世界を正しく治めることはできなかった。



大洪水の裁き

③人類は、**組織**によっても、世界を正しく治められなかった。



バベルの塔事件・散らされた人類

人類の良心も、組織も、世界を正しく治められなかった。

人間は、自分の努力で、神との平和を作り出すことはできない!!

では、いったい、どうしたら？ 人類の希望はどこに？

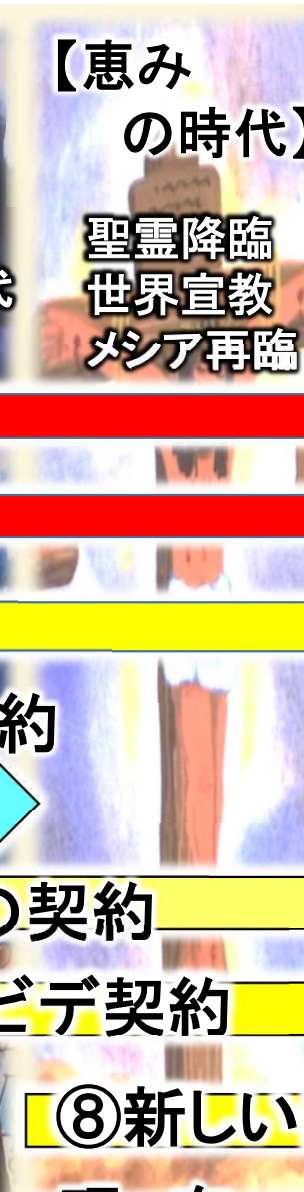
神は、名もなき一人の人、アブラハムを選んだ。

命令に従い、行き先も分からないまま旅だったアブラハム。

神は、アブラハムを祝福され、土地の授与と子孫の繁栄を告げ、その子孫から、全人類を救いに導くメシアが誕生することを約束された。

アブラハムは、神の約束を信じて、救われた。信仰によって義とされる。それが、聖書の救いの大原則!!





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの
塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン
契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱



【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

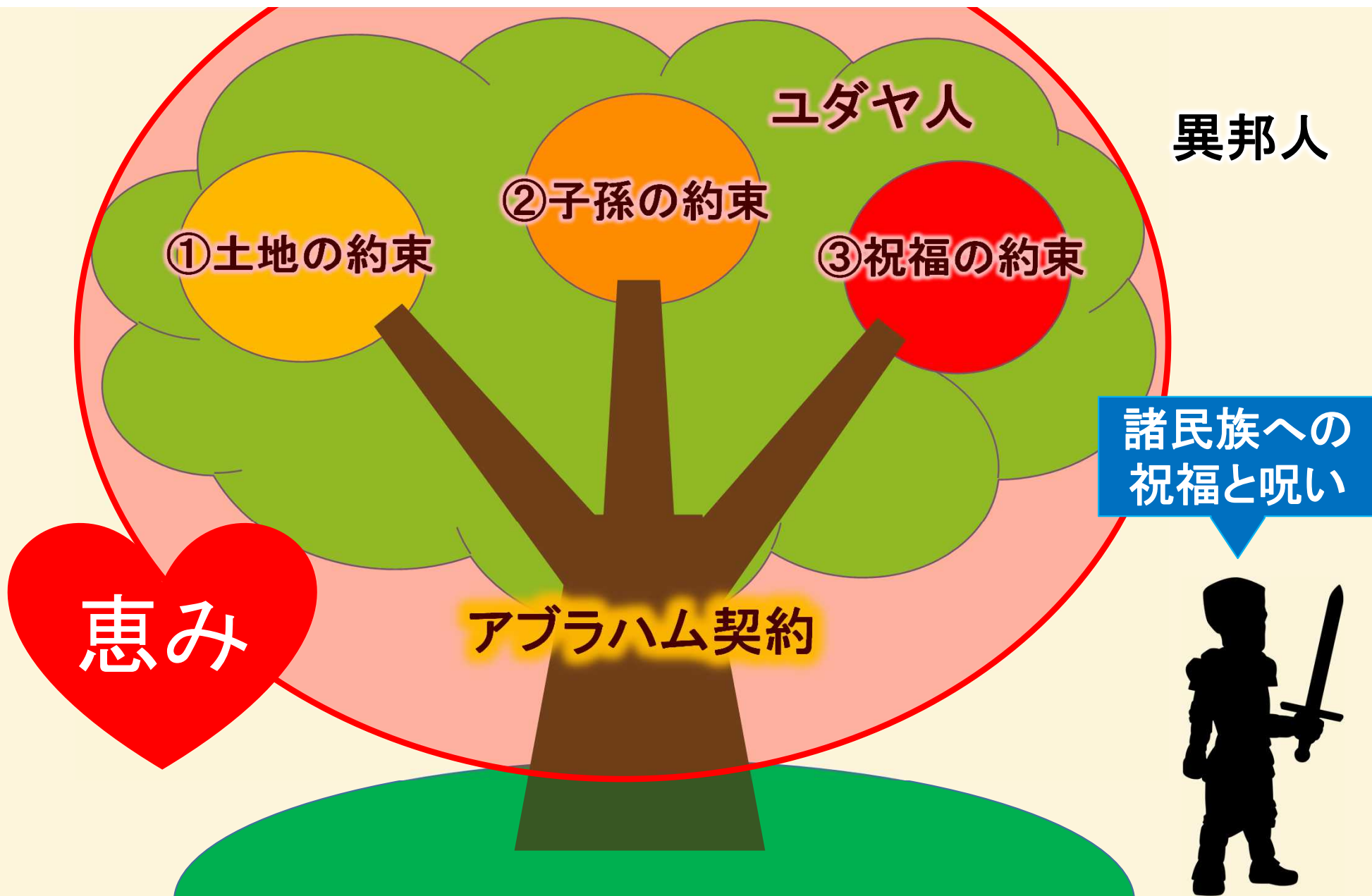
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

例)エジプト、ゲラルでの出来事。

※しるし ...割礼

【アブラハム契約】

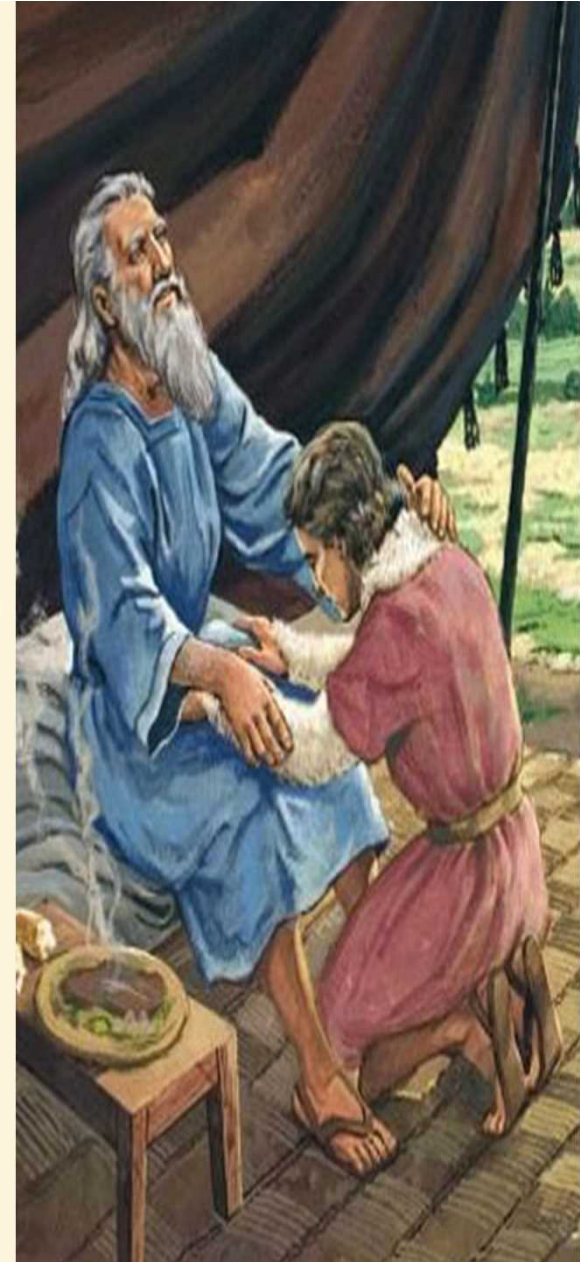


【トルドット・時代区分】

①2:4~4:26	「これは天と地が創造された時の <u>経緯</u> である」
②5:1~6:8	「これはアダムの <u>歴史の記録</u> である」
③6:9~	「これはノアの <u>歴史</u> である」
④10:1~	「これはノアの息子、セム、ハム、ヤペテの <u>歴史</u> である」
⑤11:10~	「これはセムの <u>歴史</u> である」
⑥11:27~	「これはテラの <u>歴史</u> である」 アブラハム編
⑦25:12~18	「これはイシュマエルの <u>歴史</u> である」
⑧25:19~26	「これはイサクの <u>歴史</u> である」 ヤコブ編

【三代目ヤコブの誕生から旅立ちまで】

- 父イサク60歳の時に誕生。双子の兄エサウの“かかとをつかんでいた”ことが、名前の由来。
- 神は、“兄が弟に仕える”と、予告されていた。
- 粗野で反抗的な兄とは対照的な、神の目に正しい人。
- 俗悪な兄から、豆スープ一杯で長子権を譲り受けた。
- 美食に目がくらみ、兄に長子権を譲ろうとしたイサク。
- リベカの策略をヤコブが実行。兄になりすまして、長子の祝福を得たヤコブだが、激高し殺意を抱いた兄の元を逃れ、嫁探しを名目に、故郷を旅だった。



I. ヤコブの霊的体験

創28:10～22

～荒野のただ中で～





【ヤコブの旅立ち】 創 28:10～11

ヤコブは
ベエル・シェバを立って、
ハランへと旅立った。

▲
ハラン

▲ベエル・シェバ

■約700km
函館→知床岬
東京→広島くらい?!

■ヤコブは、もう70代!!

【荒野のただ中で】 創 28:11

ある所に着いたとき、ちょうど日が沈んだので、そこで一夜を明かすことにした。彼はその所の石の一つを取り、それを枕にして、その場所で横になった。*

* 石を枕に ⇒ 枕元に石を置いた。
頭を守るため。

■ 身を寄せられるような木も岩もない、
守るものが何もない荒野のただ中で、
ヤコブは、枕元に、石を置いた。



【天に届くはしご】 創 28:12～13

そのうちに、彼は夢を見た。見よ。一つのはしご*が地に向けて立てられている。その頂は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしている。そして、見よ。【主】が彼のかたわらに*立っておられた。

* クラム ...聖書でここだけ。

⇒“上り下りするもの”としか分からない!!

* かたわら(アル) ...“～の上に”(改2017)

■ 階段の上に、神の栄光が輝いていた!!

“シャカイナグローリー” 神の臨在が!!



【ヤコブへの神の約束】 創28:13～15

- そして仰せられた。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。
- わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。
- あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、
- 地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。
- 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

神の御名の宣言

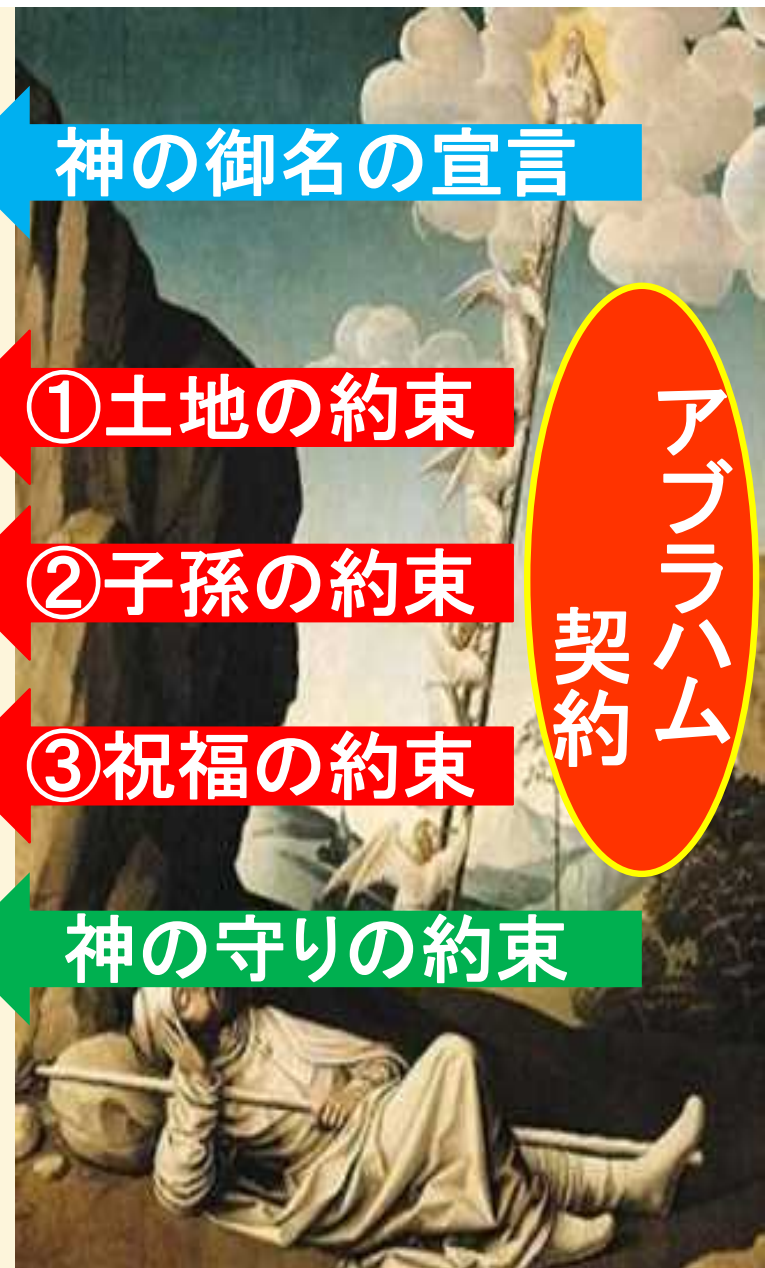
①土地の約束

②子孫の約束

③祝福の約束

神の守りの約束

アブラハム
契約



【神の家・ベテル】 創 28:16～19

ヤコブは眠りからさめて、「まことに【主】がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった」と言った。

彼は恐れおののいて、また言った。「この場所は、なんとおそれおおいことだろう。こここそ神の家*にほかならない。ここは天の門だ。」

翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを石の柱として立て、その上に油をそそいだ。*

そして、その場所の名をベテル*と呼んだ。しかし、その町の名は、以前はルズであった。



* ベト・エロヒーム(神の家) ⇒ベテル

* 油を注ぐ ⇒神への献身を示す行為。

■ 何もない荒野で、主がヤコブと共におられた。
ここが、ヤコブの信仰の原点・礎石となった。

【ヤコブの誓願】 創 28:20～22

それからヤコブは誓願を立てて言った。「神が私とともにおられ、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る着物を賜り、無事に父の家に帰らせてくださり、こうして【主】が私の神となられるなら、石の柱として立てたこの石は神の家となり、すべてあなたが私に賜る物の十分の一を必ずささげます。」

- ヤコブは、今後の生涯の歩みの中で、経験的に神を知っていくことを望んだ。
- 願いが果たされ、帰還した時には、神に完全に献身することをヤコブは誓った。十分の一の捧げ物は、ヤコブの全的献身のしるし。



Ⅱ. ハランの地での出会い

創29:1～14





【ハラシへの旅】 創29:1
ヤコブは旅を続けて、
東の人々の国へ行った。

【ハランの地の井戸で】 創29:2～3

ふと彼が見ると、野に一つの井戸*があった。そしてその井戸のかたわらに、三つの羊の群れが伏していた。その井戸から群れに水を飲ませることになっていたからである。その井戸の口の上にある石は大きかった。群れが全部そこに集められたとき、その石を井戸の口からころがして、羊に水を飲ませ、そうしてまた、その石を井戸の口のもとの所に戻すことになっていた。*

* 人が集う井戸は、絶好の情報収集の場所。

* 大切な水を守るための石のふた

共同利用者がそろうまで待つしきたりだった。

⇒待っていれば、この地の一族に一通り会える!!

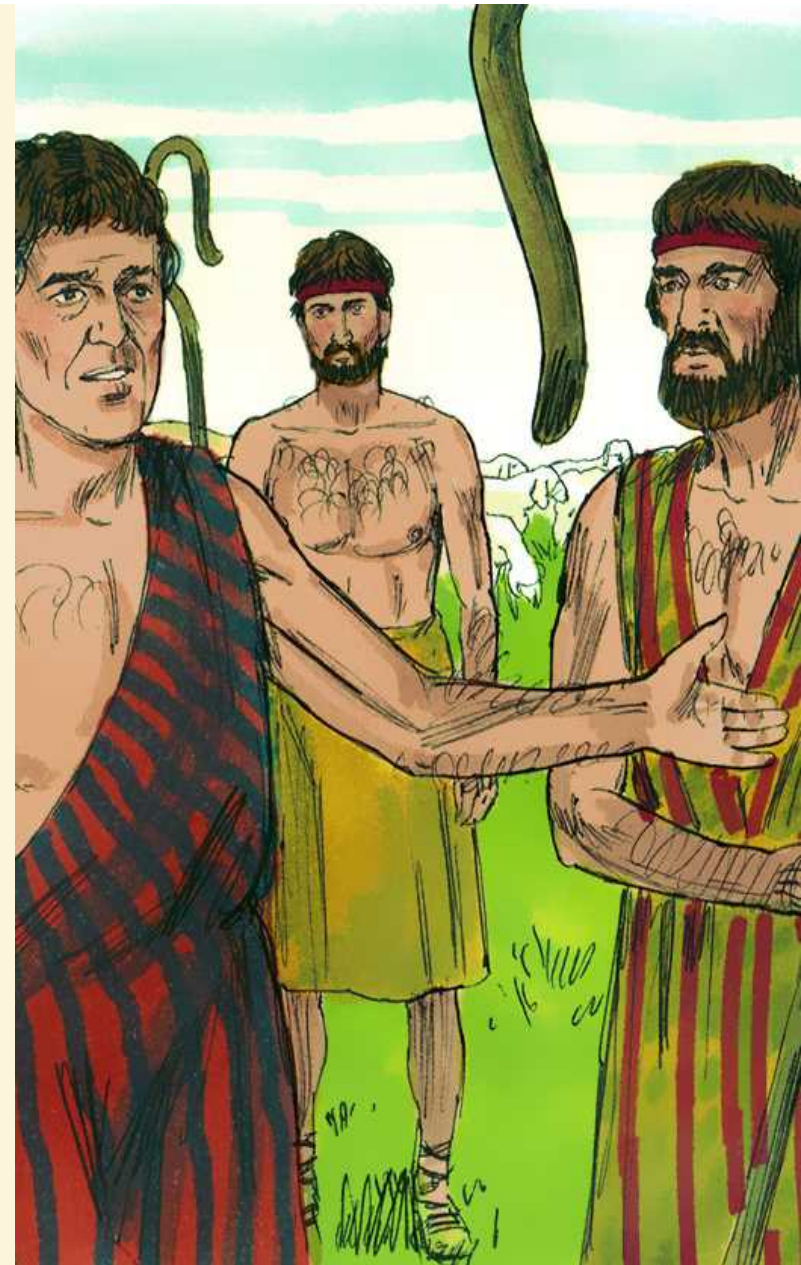


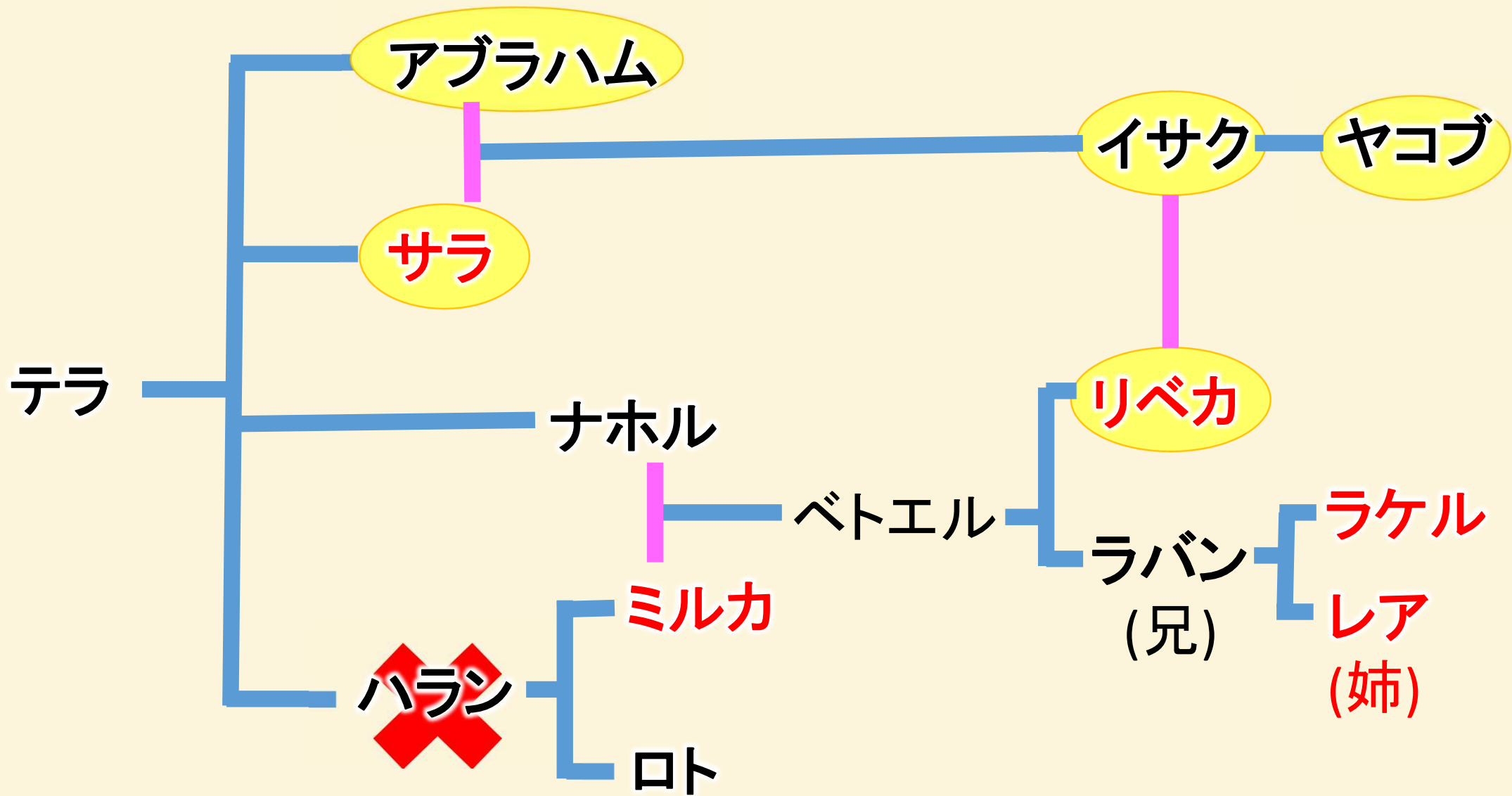
【一族の消息】 創 29:4～6

ヤコブがその人たちに、「兄弟たちよ。あなたがたはどこの方ですか」と尋ねると、彼らは、「私たちはハランの者です」と答えた。

それでヤコブは、「あなたがたはナホルの子ラバンをご存じですか」と尋ねると、彼らは、「知っています」と答えた。

ヤコブはまた、彼らに尋ねた。「あの人は元気ですか。」すると彼らは、「元気です。ご覧なさい。あの人の娘ラケルが羊を連れて来ています」と言った。





【ヤコブの人となり】 創 29:7～8

ヤコブは言った。「ご覧なさい。日はまだ高いし、群れを集める時間でもありません。羊に水を飲ませて、また行って、群れをお飼いなさい。」

すると彼らは言った。「全部の群れが集められるまでは、そうできないのです。集まったら、井戸の口から石をころがし、羊に水を飲ませるのです。」

■ “かかとをつかむ者” ヤコブの本領発揮

⇒しきたりの非効率さを指摘し、改善を提案!!

⇒この地で、大きな成果を収めることに!!



【ラケルとの出会い】 創 29:9～11

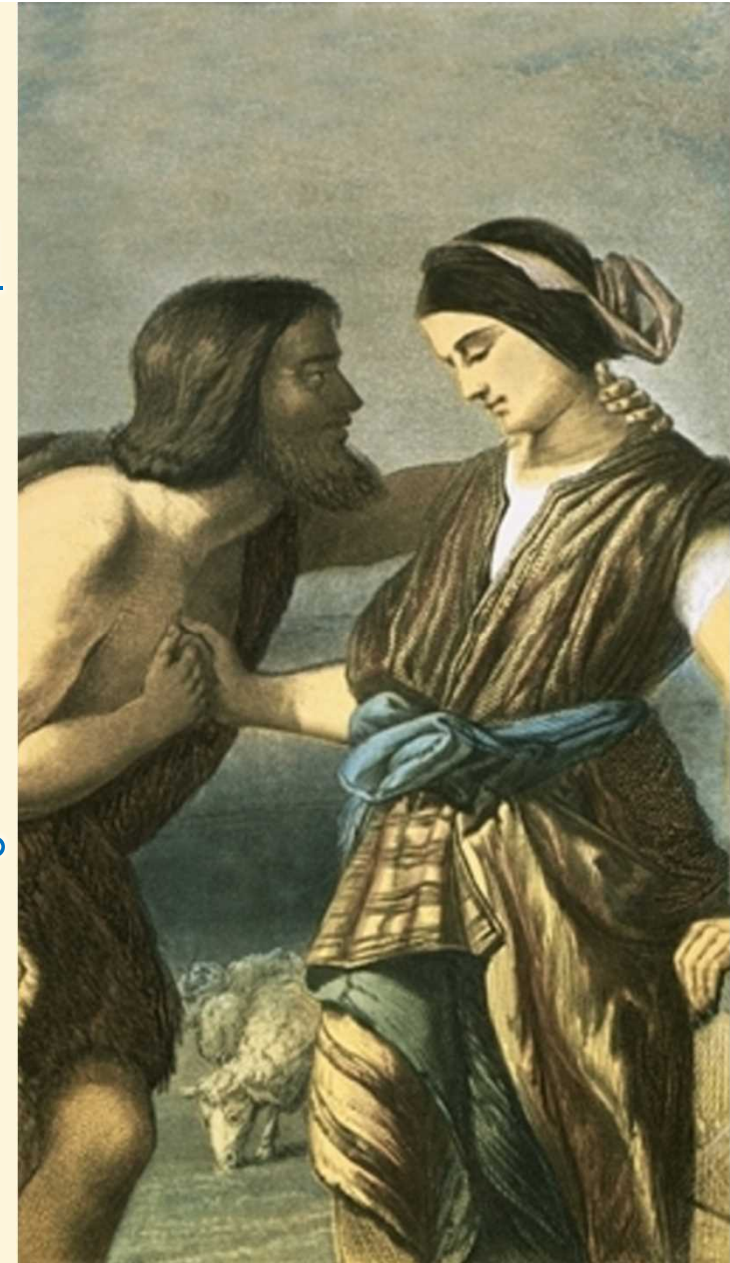
ヤコブがまだ彼らと話しているとき、ラケル*が父の羊の群れを連れてやって来た。彼女は羊飼いであった*からである。

ヤコブが、自分の母の兄ラバンの娘ラケルと、母の兄ラバンの羊の群れを見ると、すぐ近寄って行って、井戸の口の上の石をころがし、母の兄ラバンの羊の群れに水を飲ませた。そうしてヤコブはラケルに口づけし、声をあげて泣いた*。

*ラケル ⇒“雌の子羊”の意味。

*羊飼い ⇒この地方では誇り高き高貴な職業

*絶望と孤独、神との出会い、長旅を経ての…。



【新たな家族のもとで】 創 29:12～14

ヤコブが、自分は彼女の父の親類であり、リベカの子であることをラケルに告げたので、彼女は走って行って
*、父にそのことを告げた。

ラバンは、妹の子ヤコブのことを聞くとすぐ、彼を迎えに走って行き、彼を抱いて、口づけした。そして彼を自分の家に連れて来た。ヤコブはラバンに、事の次第のすべてを話した。

ラバンは彼に、「あなたはほんとうに私の骨肉です」と言った。こうしてヤコブは彼のところに一か月滞在した。

* ラケルの行動力、誠実さ。

* 天涯孤独から、血族のもとに迎え入れられたヤコブ





Ⅲ. まとめと適用
生けるキリストと共に歩もう

【ヤコブの見た夢の意味】 ヨハネ1:51

■ イエスの宣言

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。
天が開けて、神の御使いたちが人の子の上
を上り下りするのを、あなたがたはいまに見
ます。」

※天地をつなぐ「はしご」とは、イエス・キリスト
罪の隔てを破り、神と私たちをつなぐ方

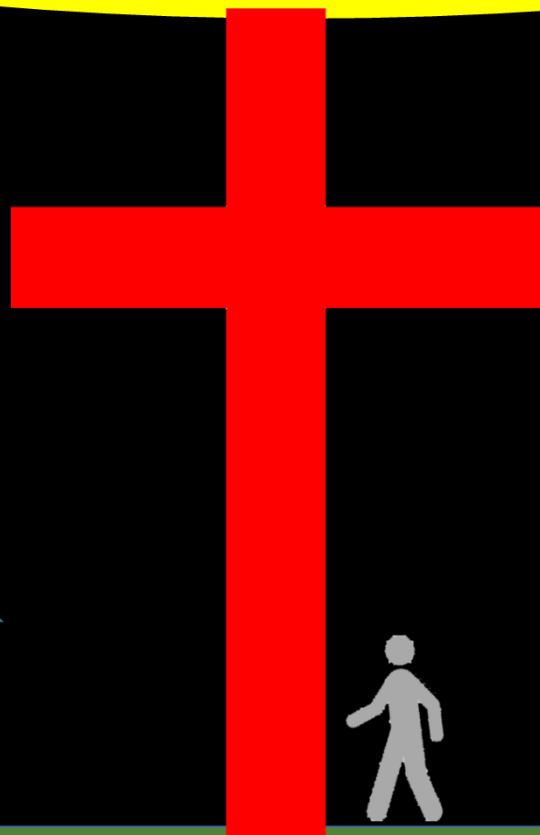
■ アブラハムの子孫から現れると約束された
メシアご自身が、ヤコブの生涯を守り、導いた。



神

【救いとは？】

人は、どうしたら
神にたどりつける？



哲学

宗教

善行

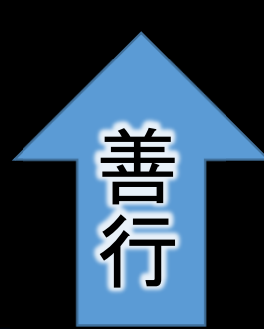
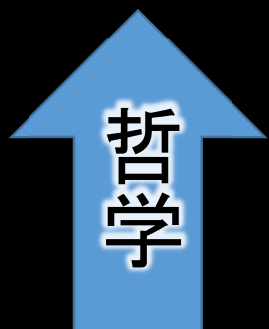
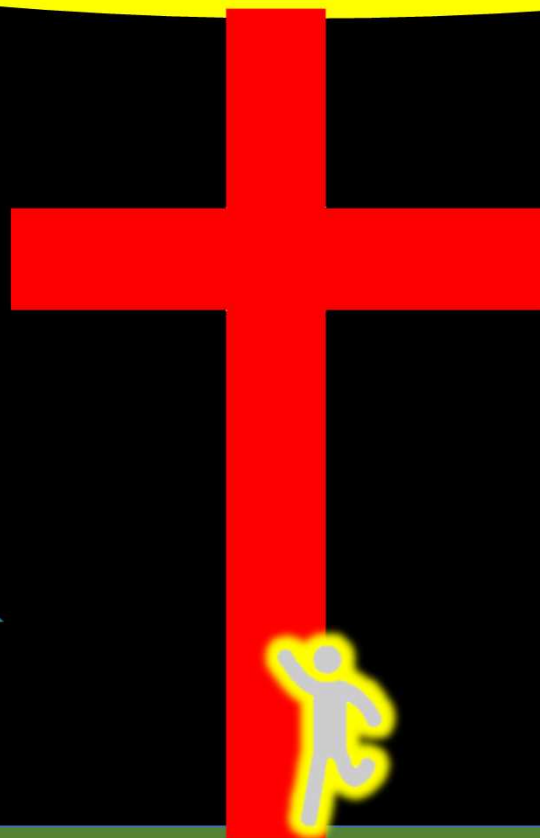
知識

人

神

【救いとは？】

人は、どうしたら
神にたどりつける？



人

神



「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。
わたしを通してでなければ、
だれも父のみもとに行くことはできません。」 ヨハネ 14:6

哲学

宗教

善行

知識

人

【ヤコブの旅路を振り返ろう】

- 父を欺し、兄の怒りを買ひ、母と別れ、一人旅だったヤコブ。
- 身を寄せるものすら何もない、荒野のただ中で、神と出会った。

- アブラハム契約が、神ご自身によって、ヤコブに継承された。
- 神ご自身が、ヤコブと共におられ、守り、導くと約束された。

- ヤコブは、体験的に主を知っていくことを願い求め、
約束の地へ帰還したおりに、全的献身をすると主に誓った。

- 主は、ヤコブの旅を確かに守り、ハランにたどり着かせてくださった。
- 新たな家族、将来の妻とヤコブは出会った。

【ヤコブの旅から学ぶこと】

- 孤独と絶望、危機と恐れの中で、主はヤコブに語りかけられた。
天地をつなぐはしごなる主イエス・キリストが、
主を愛するすべての人と、どんなときでも共にいてくださる。
- 永遠の故郷である神の国へたどり着くことは、
福音を信じた、すべての人に完全に保証されている。
- 世の試練のただ中であって、共におられる主を仰ぎ見よう。
決して失われることのない主の約束を握りしめ、歩んでいこう。

主に向かって、次の一步を踏み出そう!!

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

人生(じんせい)の荒野(あらの)の ただなかにも、

主(しゅ)が共(とも)に いてくださいます。

主(しゅ)の約束(やくそく)を握(にぎ)りしめ、

平安(へいあん)の内(うち)に、

次(つぎ)の一步(いっぽ)を 踏(ふ)み出(だ)させてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈(いの)ります。

アーメン」